

浄土真宗の教章（私の歩む道）

浄土真宗

親鸞聖人

（承安二年四月一日）

（弘長二年十一月二十八日）

（一六三三年一月十六日）

（一七三三年五月二十一日）

浄土真宗本願寺派

龍谷山本願寺（西本願寺）

阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

・釈迦如来が説かれた『浄土三部経』

・『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』

・『仏説阿弥陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

・『正信念仏偈』（教行信証）行巻末の偈文

・『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

『御文章』

教義

生活

宗門

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する。

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の信心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによつて、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。